

第5・6学年 道徳学習指導案

西宇小学校5・6年生 児童5名 授業者 井上清隆

1 総合単元名 「わたしのふるさと」

2 総合単元について

本校は剣山国定公園内の、観光資源に富む魅力あふれた地域にある。小規模校の本校にとって、地域との連携は不可欠なものになっている。隣接する老人福祉施設「山城荘」との交流会「ケアフレンド友の輪」も定期的に行っており、職員の方々も「小学生のみんなが来てくれることが、お年寄りにとって一番の薬だから」と毎回楽しい催し物を準備して迎えてくれる。お年寄りとの交流を子どもたちも心待ちにしており、相手を思いやる優しさや気遣いの心も育っているが、自分からお年寄りのために何かをしようとする意欲やアイデアには物足りなさを感じることもある。

このように、西宇の子どもをとりまく環境は物的にも人的にも恵まれており、地域との結びつきも密接である。しかし、子どもたちはそれを当たり前と感じており、ふるさとのよさを意識し、関心や喜びを持って受け止めたり、お世話になっている保護者や地域の人たちに対して感謝の念をもったりすることについては、課題も残される。

そこで、自分が生まれ育ったふるさと・西宇のよさに気づき、誇りをもって心豊かに生きていくためにも、自分を支えてくれている「ひと」や「こと」に感謝し、それにこたえようとする態度を養いたいと考え、本年の総合主題を「ありがとうから始めよう」と設定した。

1学期の総合単元「『ありがとう』の気持ちをこめて」を通して、子どもたちはいのちの尊さや、自分を支えてくれている人たちの存在に改めて気づき、今ある自分のいのちや家族に感謝し、自分やまわりのひとたちを大切に思う気持ちが、少しずつではあるが育ってきている。

2学期の総合単元「わたしのふるさと」では、ふるさとを守り育ててきた先人たちの偉業にふれ、感謝するとともに、ふるさとに誇りをもち、その発展に努力・貢献しようとする心構えを育てたい。

全校児童で取り組んでいる「西宇太鼓」は、地域の神社や敬老会でも演奏しており、自然の恵みに感謝し尊重してきたふるさとの伝統にふれるよい機会となっている。普段は何気なく接している自然環境の大切さと、それらを大切に守り育ててきた先人たちの努力や思いを、「ひとふみ十年」「山を緑に」で更に深く学習したい。普段は大勢の前で発表する機会の少ない子どもたちであるが、「西宇太鼓」の演奏に対する地域の方々からのあたたかい反応に力を得て、熱心に練習に取り組み、精一杯の演奏をすることができている。「牛乳配り」では、社会の一員としての自覚や、公共のために役立とうとする意欲をさらに高めていきたい。

3学期の総合単元「責任と誇りをもって」では、感謝の気持ちをさらに広げ、社会の一員としてどのような行動がとれるか、とるべきかを考えさせたい。ふるさとをもっとよくしたいという意欲や希望、展望をもつことは、そのふるさとに依って生きる私たち一人一人が「人間としてよりよく生きる」ことにつながるのではないかと考える。

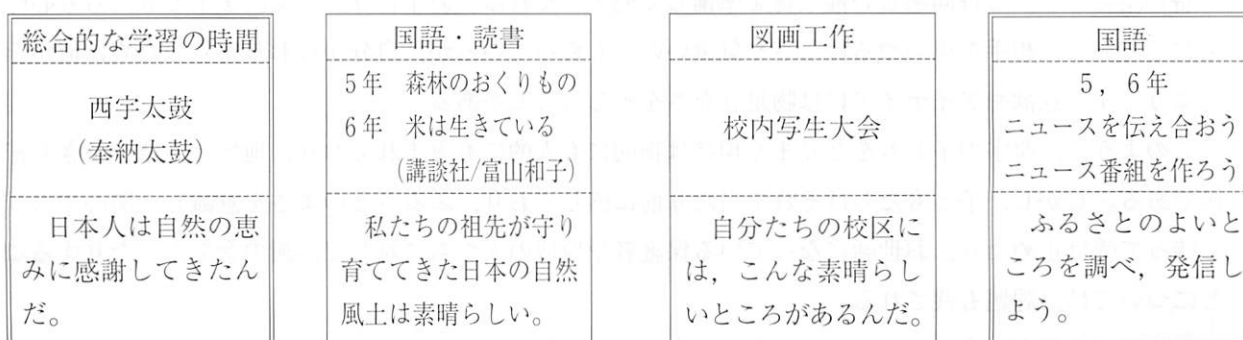
3 単元構想表

実習指導学 第10巻 第1号

わたしのふるさと

ふるさとや自然を守り育ててきた人たちの生き方にふれ、ふるさとに誇りをもち、社会の一員としての自覚を高め、公共のために役立とうとする意欲を高める。

総合的な学習の時間	自然が貴重な観光資源として活用されている山城町や三好地区の観光地などを調べ、郷土の良さについて認識を深めたり、郷土の将来について自分の意見を発表する。
郷土を知ろう学ぼう語ろう	



	10月26日	11月2日	11月9日	11月16日(本時)
主 題	自然の尊さ	だれかのために	困難に耐えて	ふるさとを見つめて
資 料 名	ひとふみ十年	牛乳配り	山を緑に	ぼくのふるさと
出 典	県副読本5年	5年生の道徳(文溪堂)	県副読本6年	5年生の道徳(文溪堂)
内 容 項 目	3-(1) 自然愛	4-(4) 勤労・奉仕	1-(2) 不とう・不屈	4-(7) 郷土愛
ね ら い	自然が保たれるにはたいへんな年月が必要であることを再確認し、自然の大切さを理解させる。	自分の取り組んでいる活動が、いつか、どこかで、誰かのために役立っていることに気づき、進んで勤労・奉仕しようとする意欲を高める。	自然を守り育てようと努力した来代たちの取り組みを通して、目標を持ち根気強く物事にあたることの大切さを学ぶ。	ふるさとと自分との関わりに気づき、ふるさとを愛する心を持って、ふるさとをよりよくしようとする意欲を高める。
心 の ノ ー ト	p 60~61	p 90~91	p 62~63	p 100~101

常時活動 ・ ケアフレンド友の輪

4 本時の学習

(1) 主 題 名 ふるさを見つめて

(2) 主題設定の理由

<ねらいとする価値について>

4 - (7)	郷土や我が国の文化と伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土や国を愛する心をもつ。
---------	--

人は誰しも、家庭や学校も含めた地域社会との関わりの中で成長していく。その人の生き方や考え方と、ふるさとを切り離して考えることはできない。私たちの住む日本や地球も一人一人のふるさとの総体であり、ふるさとを大切に思う気持ちは、これからの社会を担っていく児童にとって、基盤となる大切な心情である。しかしあまりにも身近なものであるがゆえに、わたしたちは自分のふるさとは知らないことも多く、また日常生活において、ふるさととの関わりやふるさとへの愛情を自覚することは少ない。

ふるさとの自然や文化、歴史や伝統に目を向け、それらを守り育ててきた先人たちの努力に対する尊敬や感謝を通して、ふるさとを愛し誇りに思う心情を育てたい。

<子どもの実態>

子どもたちはこれまでに、家庭や地域の人たちとの関わりや教科の学習を通して、地域に関する知識をもったり、地域の人たちがどのような気持ちや願いをもっているかなどを学んできた。

しかし、ふるさとの文化や伝統が自分たちとどのように関わっているのか、また周囲の人たちからどのような恩恵を受けているのか、といったことについてはまだ十分に意識が及んではいない。そのため意欲的に地域のことを調べたり、地域のためにできることを考え、実行しようとする態度や、保護者や地域の人たちに対する感謝の気持ちが十分に育つまでにはいたっていない。

本時の学習を通して、ふるさとのよさと、ふるさとやそこに生きる人たちと自分との深いつながりについて気づかせたい。そして、ふるさとをかけがえのないものとして捉え、ふるさとを誇りに思う心情を育てたい。そのことが、ふるさとについてすすんで学び、ふるさとをよりよくしようとする意欲を高めることにつながると考える。

<資料について> 資料名「わたしのふるさと」(5年生の道徳/文溪堂)

画家・原田泰治氏は小児麻痺の療養のため、4歳から13歳までを信州・伊賀良村で過ごした。友人たちと泥だらけになって仲よく遊んだり、ときにはひとりでさみしい思いをしながら、動植物を相手にひとり時間を過ごした伊賀良村での体験が、彼の画家としての原点となっている。また筆者のふるさとへの熱い思いが、創作活動へのエネルギーとなっていることがうかがえる。

原田氏が伊賀良村からどのような恵みを受け、どのような思いをもって制作に取り組んでいるのかを考え、自分たちが生まれ育ったふるさとのよさや、自分とふるさととの関わりを振り返らせたい。また、自分をとりまくふるさとの「ひと」や「こと」に意識を向け、感謝や尊敬の気持ちをもつとともに、ふるさとをよりよくするために、すすんでかかわっていかうとする意欲も高めていきたい。

(3) ね ら い

ふるさとのよさに気づき、ふるさとを大切にしようとする心情を育て、ふるさとをよりよくしようとする意欲を高める。

(4) 展 開

□指導上の留意点 ●評価

学 習 活 動	主な発問と予想される子どもの意識	指導上の留意点と評価
1 原田泰治氏の絵を見た感想を発表する。	○絵を見て、どのような感想を持ったか。どんな人がどんな気持ちで描いたのだろうか。	□原田氏の絵を見せ、学習への興味づけを図る。
2 資料を読み、ふるさとに対する筆者の心情を考える。 ・子どもの頃、友だちと同じ遊びができなかったとき。 ・現在、画家としてふるさとの絵に向かっているとき。	○友だちがどんぐり拾いをしたり、雪すべりをしているとき、筆者はどんな気持ちだっただろうか。 ・さみしい。 ・みんなと遊びたい。 ・自分の病気がうらめしい。 ○置いておかれた場所で見つめた自然と、どんな話をしていたのだろうか。 ・がんばってことしも咲いたね。 ・冬は寒くなかったかい。 ・まっているのは、お互いつらいね。 ・花がいっぱい仲間が多くて楽しそう。 ○現在、原田氏はどんな思いを持って絵を描いているのだろうか。 ・伊賀良村のよさを多くの人に知ってほしい。 ・絵を見た人に、自分のふるさとのよさを再認識してもらいたい。 ・自分の思い出を残しておきたい。 ・ふるさとへの感謝の気持ち。	□「ダーッと」「かなりこたえます」等のことばから、原田少年のさびしい心情を共感的にとらえさせる。 □筆者がふるさとの自然とどんな対話をしていたかを考え、自然に対するやさしいまなざしや心情に気づかせる。 ●ふるさとに対する筆者の深い思いに気づくことができたか。 □『絵のふるさと』『愛情をこめて』という表現から、作者の心情に迫る。
3 自分たちのふるさとのよさに気づき、ふるさとへの思いを新たにする。	○今住んでいる自分たちの町にはどんなよいところがあり、自分たちとどのように関わっているだろうか。 (自分を育ててくれた「ふるさと」への思いをまとめ、発表する。)	●ふるさとのよさに気づき、地域を大切にしようとする意欲を持つことができたか。 □自分たちが取り組んできた活動なども想起させ、ふるさととの関わりに気づかせる。
4 ゲストティーチャーの話聞く。		□地域で働く人の気持ちを受け継ぎ、ふるさとをよりよくしようとする意欲を高める。